一れつ

教会長夫妻おたすけ推進の集い

去る２月 17 日（土）午後２時より、教会長夫妻おたすけ推進の集いが開催されました。宮森与一郎内統領のあいさつのビデオ視聴に続いて、おたすけ推進ビデオを上映。その後、小グループに分かれ練り合いが持たれました。オンラインでの参加も含め、参加した 88 名は年祭活動２年目の実動を誓い合いました。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.916

MARCH 2024

tenrikyo.com

つらつらせんがく
熟々浅学

―発想の転換 ―

今月、春季霊祭を執り行います。先人たちの御功績の上に私たちの今があることを忘れずに通りたいものです。そして、それを土台にして更に道の発展に努め、また後世にこの教えを伝えて行くことが肝心です。

6 月 30 日の伝道庁創立 90 周年記念祭が迫ってまいりました。その前日にはアメリカ婦人会・アメリカ青年会の創立 70 周年記念合同総会も開催されます。記念祭、また合同総会に挙って参集していただければ、親神様、教祖もお喜びくださるでしょうし、また、婦人会長様、青年会長様もお喜びくださると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、昨年（2023 年）9 月、ニューヨーク州ハイドパーク市（Hyde Park）に、日本の酒造が酒造所とテイスティングルームをオープンしました。

かつて、この酒造のお酒は非常に人気が高かったため、転売されて、高値で売られることがありました。その際、酒造は「高値で買わないように」と正規の値段を表示した広告を出したことがあります。現在、この酒造は世界約 30 ヵ国にお酒を輸出する企業へと成長しています。

現在、このような“勝ち組”の人気酒造として知られていますが、先代社長が亡くなって現会長が社長に就任した 30 代の頃は、“負け組”の酒造だったのです。当時はローカルな酒造で、地元の酒店にお酒を卸していたのですが、お酒自体に特徴がなく、値引きしたり、さまざまな景品を付けたりして、お酒を仕入れてもらっていたような状況でした。また、当時の日本では日本酒離れが起きていたこともあり、その影響もあってか、この酒造は倒産寸前の危機にありました。

そこで、現会長は、最高品質のお酒を造り、他社との差別化を図るために、「純米大吟醸」の製造を、酒造りの一切を担う当時の杜氏に提案したところ、その杜氏から「手間が掛かる」という理由で反対されたのです。そのため、新たな杜氏を雇い、その杜氏から純米大吟醸の作り方を学びながら、一緒に新しいお酒を生み出し、ブランド名を刷新したのです。

新しいブランドのお酒を生み出したのですが、地元には以前の古いブランドのお酒の悪いイメージが残っていました。そこで、一念発起して東京進出を決め、売り込みに出掛けたのです。その結果、段々と人気が出て来て、2 年、3 年と経つうちに、注文がどんどんと入るようになり、酒造が繁盛するようになりました。

そうなってくると、今度は新規事業を始めて、更に酒造を繁栄させようと、夏場は休止状態にあった酒蔵でビール製造を始め、またレストランを開店したのです。

しかし、これに多額の資金を投じすぎた結果、年間の利益がほとんどなくなり、再び倒産寸前になったとのこと。その中で雇っていた杜氏が「私は酒造りをしたいが、このような会社ではそれはできない」と退職してしまったのです。

この危機に、現会長は、自分たちで酒造りを始める決断をしたのです。つまり、杜氏のいない酒造を立ち上げたのです。

最初に行ったことは、それまでは杜氏の勘と経験に頼っていた全ての作業をデータ化することでした。例えば、酒米を水に浸す時間や蒸し時間を秒単位で記録し、蒸米から麹米を作るた

めの麹菌の振り掛ける回数も定めたのです。

そうすると、杜氏しか分からなかったこと、つまり杜氏の勘や経験に依存していたこと、いわゆる“ブラックボックス”の中身が全て“見える”ようになったというのです。もちろん、そうなるまでには何度も試行錯誤を繰り返しています。

全ての酒造過程をデータ化したので酒造りが機械化できると思いきや、結果は手作業が増加したとのこと。しかし、このような酒造りを行うことで、段々のお酒の品質が向上したそうです。

そこで次に「ワインと肩を並べたい」とフランスに進出しました。ある有名なフランス料理のシェフからも認められて、パリでコラボレーションしてレストランを出店するほどになり、このお酒はあちらこちらで取り扱われ、世界中に広まって行ったのです。

そして今度は「アメリカでもワインのように飲まれる酒」を目指してアメリカに乗り込んできました。現在は、酒米はまだ日本から輸入していますが、将来的にはアメリカで収穫された酒米と現地の水を使った“アメリカ生まれのお酒”を製造し始める予定です。

アメリカ進出の理由が面白いのです。

先代から社長を引き継いでから、何度も失敗してきたことがプラスになる経験をベースに、「失敗するためにやってきた」というのです。

昨年、この酒造はアメリカでの新ブランドを開発し、この新ブランドのお酒は、この酒造が日本で造っているお酒をライバルにしているとのことです。

現在、卸売業者を通して販売しているのではなく、この酒造が直接販売網を開拓して取引しているようです。その理由は、直に顧客の反応がすぐに手に入るからだそうです。

将来的には、ニューヨークで製造したお酒を日本でも販売する予定ですが、今はまだ、ネットでの購入か、ニューヨーク市内や周辺の酒屋でしか直接購入することができません。

この酒造の歴史を見れば面白いですし、今後、どのような挑戦を繰り広げて行くのか気になるところです。

人生で失敗を経験しない人はいないと思うのです。その失敗をどのように活かすのかが、人生の岐路になるのではないでしょうか。人生の中で、いろいろな失敗を繰り返し経験し、そして、その経験を活かして行くということは大切なことだと思うのです。つまり、過去の失敗をプラスに捉え、それを踏み台にして成長して行くことが重要です。これは、成人して行くということと同じだと思うのです。

この酒造の現会長は、杜氏が退職した事実を受け入れ、そして酒造界では例のない（と思われる）杜氏のいない酒造会社に変革し、そこから発展させたのです。もしも杜氏の退職後に新しい杜氏を雇っていたら、今の酒造の繁栄があったのかどうかは分かりません。つまり、この現会長は“ピンチをチャンス”に変えたと言えるでしょう。

このようなことは、どこの分野でも起こり得るでしょう。

私たちの信仰生活でも、同様のことが起こると思います。その際には、どのように受け止め、処理するのか、そして、予期せぬ出来事や失敗をどのように活かし、踏み台にするのかが重要なのだろうと思うのです。

教祖は「たんのう」ということを教えてくださっています。「たんのう」は「常に己が心を省みて、いかなることも親神の思わくと悟り、心を倒さずに、喜び勇んで明るく生活すのが、道の子の歩みである」（天理教教典75 頁）という心構えです。

予期せぬ出来事や失敗をチャンスに変える、つまり“発想の転換”を持っていることは、信仰の上でも重要だと思うのです。

深谷　洋

立教187年二月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、世界一れつの子供をたすけたいとの深い思召しのまに／＼、おつけくだされただめの御教えは世界に伸び広がり、アメリカ、カナダの地にも、道を求め、ぢばを慕う教え子たちをお与えいただき、世界たすけに勤しむ姿をお見せいただいております御慈愛の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、陽気世界を目指して、教祖のひながたを頼りに、日々勇んで通らせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の二月月次祭を執り行う芽出度い日柄に当りますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りつとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみによふぼく、信者一同が参集し、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りしたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、管内の龍頭となる者が寄り集い、教会長夫妻おたすけ推進のつどいを開催し、教祖百四十年祭年祭活動二年目としての弾みとなる機会を得ましたが、教祖年祭に向けて、龍頭となる者がにをいがけ、おたすけの先頭に立ち、勇んで勤めることができますようお育ての程をお願い申し上げます。

私共は、世上にお見せくださる様々な姿を鑑みて思案し、教祖百四十年祭の年祭活動二年目の時旬も、たすけ心を以て、陽気ぐらし世界実現に向けて勇躍邁進すると共に、次世代にも御教えを伝えたいと存じます。また、管内の教友が一手一つとなって更なる心の成人に励み、喜び心と共に、本年六月三十日に迎えます当伝道庁創立九十周年記念祭を勤めたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、届かぬところは幾重にもお仕込みくださり、尚も自由自在の御守護を賜り、一日でも早く、世界の人々がたすけ合って暮らせる世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

２月月次祭神殿講話

アメリカ伝道庁主事
奥井 俊彦

本日はアメリカ伝道庁の２月の月次祭のおつとめを庁長ご夫妻を芯に皆様方と共に勇み心いっぱいに勤め終えさせて頂き、喜びにたえません。

講話のご指名を頂きましたので暫くの間お付き合いの程、お願い申し上げます。

只今は教祖 140 年祭三年千日の真只中、そして本年６月 30 日にはアメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭を勤めさせて頂く、「成人の旬」であります。

私が長年ご用をさせて頂きましたニューヨークセンターは丁度 50 年前の伝道庁創立 40 周年の記念事業として企画されました。

戦後、世界布教に燃え、日本から渡って来られた先輩先生方が「あらきとうりょう」としてアメリカ東部ニューヨークに拠点をご守護頂こうと種を蒔いて下り、その真実が実って設立へ至ったのであります。

そのニューヨークセンターも、３年後の 2027 年に、50 周年を迎えます。

この間、伝道庁の記念祭、教祖の年祭、センターの記念祭を其々４回勤めさせて頂きました。その都度、旬に聞かせて頂く親の思いに沿って目標を定め、皆さんと一丸となってワイワイガヤガヤやって来て、今日のニューヨークセンターにまで育てて頂きました。誠に有り難い事と思わずにはおれません。

私は、今から 45 年前、当時の庁長だった篠森靖人先生から２年程ニューヨークに行ってもらえないかと言うお話を頂き、1979 年の９月にニューヨークセンター二代所長として、赴任しました。

お道の事は何も分からない素人でしたので、２年だったらなんとか務まるのではないかとの思いでお受けしたのを今でも覚えています。

約束の２年はあっという間に過ぎて、最初の大きな喜びの時が訪れました。

それは、1981 年７月、三代真柱様ご夫妻、青年会長様（今の真柱様）ご一行のニューヨークお立ち寄りです。

前真柱様とまさ奥様は、丁度その 10 年前の 1971 年７月にもブラジルへの途路お立ち寄りになっておられます。

しかし、その時はまだニューヨークセンターは無かったので、お出迎えの準備は、当時、伝道庁の書記を務めながらアメリカ青年会の委員長であった寺田好和先生がニューヨークへ出向かれ、お世話取り下さいました。

現地の教友 30 数名が集まり前真柱様の 39 歳のお誕生日をお祝いされて、その集いがきっかけとなり、ニューヨークに拠点をと言う機運が現地でも高まり、40 周年活動へと進展していったのであります。

1981 年のニューヨークご訪問は前真柱様の 49 歳のお誕生日と重なりました。親にお喜び頂けるお迎えを考えた時、一人でも多くの教友でお祝いさせて頂きたいと思い、アメリカらしい会場と雰囲気作りを念頭に歓迎パーティーを計画しました。当時まだ、20、30 代だった私達は準備の段階から喜びに溢れ、中東部の教友にも声を掛けさせてもらった結果、シカゴ、ケンタッキー、ワシントンＤＣ、トロントからの人達も含め 140 名程の教友の参加を得て、親子団欒の忘れえぬひと時を過ごし、この上ない喜び

と共に勇み心を頂戴致しました。
その歓迎会の様子ですが、ちょうど前真柱様自ら作詞作曲された「教祖百年祭の歌」が発表された時でもありましたので、早速現地で英語に翻訳してアメリカ人のようぼく音楽家がバロック風の混成３部合唱にアレンジしたものを披露させていただき、フルバンド用にもアレンジした演奏で会場を盛り上げました。
この日の為に天高吹奏楽 OB でジャズの勉強の為ニューヨークに留学していたようぼくがバンド仲間に声を掛けてフルバンドを結成。そのフルバンドをバックに、フランクシナトラがヒットさせた「ニューヨーク・ニューヨーク」をプロの女性歌手が歌って最高潮を迎え、最後はジャズ風にアレンジした「教祖百年祭の歌」が演奏される中、前真柱様御一行は会場をあとにされました。
このお立ち寄りを機にニューヨークの道はセンターを中心に伝道庁 50 周年、教祖百年祭、センター 10 周年の成人の旬と立て合って急速に勢い付いて行きました。
先ず、このお立ち寄りの３年後に迎えた伝道庁 50 周年記念祭には、センター設立以降、日本から若い布教師が東海岸にも数名が居を構え布教活動を開始された事もありニューヨークを中心に、アメリカ東部から 51 名が参加させて頂いたのであります。ちなみに 40 周年の時は東部から１名の参拝者でした。
また、このお立ち寄り以降、センターの月次祭の参拝者はほぼ倍増し子供を含め 50 人以上で毎月勤められるようになりました。
その中のある女性は、前真柱様ご一行をお迎えしたその月の月次祭に初参拝され、それ以降毎月欠かさず参拝されるようになりました。
しかし、祭典が終わると直ぐに帰えられるのでゆっくりお話も出来ない状態でした　日を改めてお話したところ、マンハッタンに住む画家で大学の教授であることが分かりました。彼女の話によれば「殺伐としたマンハッタンの暮らしの中で、このおつとめによってどれだけ心が癒され、安らぎを与えてもらっているか、、、だから毎月第一日曜を楽しみにしている。」との事でした。
当時のセンターの神殿は、民家の居間を改造した狭い一間でした。
おつとめ奉仕者の服装はまちまちで、手をどりは４人並ぶスペースしかなく、みかぐら歌のめくりを頼りに勤めていました。鳴物も全て揃っていないおつとめを、心の拠り所として毎月参拝して下さっている方の存在を知り、おつとめの素晴らしさと重要性を改めて認識いたしました。
同時に、それまでのおつとめに対する姿勢を深くお詫びを申し上げると共に、今後は、教祖にお喜び頂けるおつとめを勤めさせて頂かねばと反省致しました。
彼女はその半年後、初めておぢば帰りをされ、ニューヨークセンター所属の最初のようぼくになられ現在も元気で活躍されています。
それから２年後の 1983 年、教祖百年祭三年千日の一年目の春季大祭で前真柱様は三年千日の歩み方について次のようにお述べになりました。
「自分が今日まで心にかかりながら、なかなか実行できなかったことのうち、一番理の重いと考えること、よろしいですか、一番やりにくいと考えること、そうしたことを三年千日を仕切って努力を重ね、ご守護を頂けるように苦心して道を通らせて頂くと言うことが、今日の私たちの決意でありたいと、私は申したいのであります。」
親の声をしっかり受け止めて、早速ニューヨークセンターでは百年祭の翌年に迎える 10 周年に向けて、月次祭のおつとめを教祖からお教え頂いた通りの形に揃えることから始めました。
それまではまちまちの服装でつとめていましたが、おつとめ奉仕者全員がおつとめ衣を着用することを前提に、手をどりの人数を４名から二列で６名に、鳴物９名、地方１名の３交代で、地方の節回しは三代真柱様がお示し下さった歌い方に揃えることに決めました。毎月地方講習を実施して「おつとめの完成を目指して」をスローガンに掲げて全員で真剣に取り組み、励みました。
そしてセンター 10 周年には違わんおつとめが勤められるよう神殿を北向きから西向きに変更、上段、参拝場共それまでの倍の広さに拡張した改修工事を喜びの内に１ヶ月で見事にご守護頂きました。
伝道庁 50 周年、教祖百年祭、センター 10 周年の成人の旬を、ニューヨークセンターに繋がる私達は違わんおつとめの勤修を第一の成人目標に掲げて、次の塚に向かって踏み出すことができたのであります。

センター 20 周年に向かう旬には海外部からのお声掛けと絶大なサポートを頂き対外的活動としてニューヨーク天理文化協会がマンハッタンに開設され、海外部、青年会本部、婦人会本部からの人材派遣を頂き、伝道庁の親心、現地ニューヨークをはじめアメリカ管内の皆様方のご支援のお陰で今月の 26 日で 33 年目を迎えさせて頂きます。

また、30 周年の旬には、念願だった神殿ふしんを森下敬吾所長統率のもと、ご本部、現地東海岸の教友、アメリカ伝道庁管内の皆さんのご真実と、そして、何よりも親神様の不思議なご守護と教祖のお導きを頂戴して大普請を無事成し遂げる事が出来ました。

50 年前、伝道庁 40 周年の記念活動として設立されたニューヨークセンターですが、設立以来どれ程の人がセンターを心の拠り所としておつとめに励み、また其々の会活動を通して成人の道へとお導き頂いたか計り知れません。

誠にありがたい限りであります。

さて、私事になりますが、本年の元日早々、日本にいる弟が肺に膿と水が溜まる膿胸という厳しい身上をお見せ頂きました。

急遽 1 月 2 日に手術をしましたが、術後の経過を心配した担当医から「家族に知らせるように」と言われたと、弟の妻から連絡があったので、1 月 5 日に急いで帰国し、約 1 ヶ月近く私の出身地の島根県出雲市に滞在しました。

12 月半ばまでは元気に働いていた弟でしたが、東京から一緒に駆け付けた次男夫婦と初めて面会に行った 1 月 7 日は、二つの人工呼吸器や数えきれないほどの管に覆われ、極めて深刻な容態に陥ってました。

直ぐにおさづけを取り次ぎ、翌日からは、午前中に所属教会へ参拝し、12 下りのお願いづとめを勤め、午後から病院へ通う毎日が始まりました。

意識のない弟の上半身におさづけを取り次ぐ日が暫く続きましたが、症状に変化が見られたのはおたすけに通い始めた 10 日目の 1 月 16 日、その日は所属教会の春季大祭の日でした。所属教会で久し振りに月次祭を勤め、病院に行っておさづけを取り次いだ後、初めて主治医が「良い知らせがあります。」と言って下さったのです。左の肺に幾つかの穴があき、そこから空気が漏れていたのが塞がって空気漏れが無くなった結果、二回目の大きな手術を免れたのでした。

1 月 18 日には、上々級の大祭でおつとめを奉仕し、20 日はその上の上級の大祭にも参拝させて頂きました。また、思いがけず 26 日のおぢばの春季大祭にも参拝することが出来ましたので、親神様、教祖に心よりお礼を申し上げました。

私が日本を出発する 30 日には、弟の体から殆どの管が外され、一ケ月近く過ごした ICU から別の病棟に移動することが出来たと、嬉しい知らせが届きました。

そして今日、一般病棟に移りました。

身上や事情は、私達を成人へと導いて下さる親神様の「てびき」であります。

そして手を引かれる先は、真の陽気ぐらしであると教えて頂いております。

弟夫婦の家には講社がお祀りしてあり、朝夕のおつめは申すまでもなく、毎月欠かさず所属教会の会長さんをお迎えして 30 年以上講社祭を勤めてきました。

海外に住む一人娘もようぼくですが、今回、小さな子供二人を置いて父親の看病に駆け付け、母親を支えました。

私達三人は毎日病院へ通い真剣におさづけを取りつぎました。

おさしづに、

理は見えねど、皆帳面に付けてあるのも同じこと、月々年々余れば返やす、足らねば貰う。平均勘定はちゃんと付く。

明治 25 年 1 月 1 3 日

と、仰せられるように、理づくりとは、教祖の

教えを日々実行して、根気よく積み重ねること。そうすれば、親神様の帳面にもれ落ちなく記されていくのであります。時間をかけて、確実に実行した理づくりの絶対量がある目標を超えた時に、おたすけのうえで、不思議なご守護となってあらわれてくる。

ただし、不思議なご守護を見せて頂いたときには、いったん清算されたという慎みの心で、また一からコツコツと積み上げていく。

そういう繰り返しが成人へと繋がるのだと聞かせて頂きます。

この先、厳しいリハビリも続きますし、まだまだ油断はできませんが、弟の命を救けて頂いた喜びを原動力として、残された三年千日を心新たに勇んで通らせて頂きたと思います。

いよいよ6月30日には伝道庁創立90周年記念祭が、そして前日の29日にはアメリカ婦人会・アメリカ青年会創立70周年記念合同総会が婦人会長様と青年会長様のご臨席を頂き開催されます。

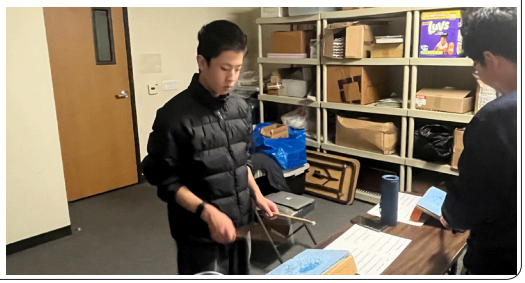
一人でも多くの参拝者で伝道庁を埋め尽くし、喜び勇んだ姿を親にご覧いただこうではありませんか。

そして、教祖140年祭を更なる成人の節目として、おつとめの勤修で世の治りを願い、世界たすけの歩みを皆様方と共に勇んで推し進めて参りましょう！

ご清聴ありがとうございました。

信仰の喜びを分かち合おう！
私の９０周年記念祭
そして教祖１４０年祭へ向けて

アメリカ団少年会では、子どもたちに信仰の喜びを伝え、教会でおつとめを勤める人材を育成することを目指し、将来、立派なようぼくに育つことを目的に鼓笛隊活動を進めています。また携わる育成会員も共に育てさせていただいています。現在、創立90周年記念祭での余興出演に向けて、練習を重ねています。乞うご期待！



伝道庁連絡

2月月次祭
祭　主　　庁長
扈　者　　大西　知　林　孝彦
賛　者　　岩橋元博、野町ジョン
指図方　　田中知義
神殿講話　奥井俊彦（日）

教会事情
ユタ教会：任命願、臨時祭典願
　おはこび：2024年3月26日予定
　教会長：大林昌代、
　奉告祭：2024年4月21日
加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願
　おはこび：2024年4月18日予定
　創立90周年記念祭：2024年12月1日
シカゴ教会：任命願、臨時祭典願
　おはこび：2024年4月18日予定
　教会長：木村陽介
　奉告祭：2024年7月28日
台檀教会：移転願、臨時祭典願
　おはこび：2024年4月26日予定
　教会長：ソー・リン・ミツノ
　鎮座祭：2024年7月27日、
　奉告祭：2024年7月28日
　住所：632 El Pinatado Rd,
　　Danville, CA 94526
本リッチモンド布教所：
　新布教所長：マナリセイ・ジョーイ・ケン
サンマテオ教会：電話番号変更
　新しい電話番号：(650) 341-5947

ようぼく一斉活動日
各地区責任者で、第2回開催の「計画書」を提出していない方は、早々に書記に提出して下さい。

春季霊祭
3月16日（土）午後7時より、春季霊祭が執り行われました。今回は、大林勝一ユタ教会7代会長の霊様が合祀されました。

第85回アメリカ修養会
第85回アメリカ修養会が､2024年7月21日（日）から8月17日（土）まで開催予定です。開講約1ヶ月前（6月16日）までに、英語・日本語クラスは2名以上、スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

能登半島地震募金
能登半島での地震災害に対して、3月17日（日）まで、伝道庁事務所に募金箱を設けて募金を始めます。小切手の場合は宛名に「Tenrikyo Mission Headquarters in America」と記入し、メモ欄に「能登地震」と書いてください。尚、現金の郵送はご遠慮ください。

Tax控除を希望される場合は、封筒に現金又はチェックを入れて封をし、寄付者の氏名、住所、金額と「能登地震」と封筒に書き、募金箱に入れてください。後日、アメリカ伝道庁より感謝状をお送りさせていただきます。

この募金は「能登地震」の災害救援活動に役立ててもらえるよう｢天理教災害救援ひのきしん隊基金」に届けます。

記念祭前大掃除
5月26日（日）の遥拝式後､午後12時30分より、アメリカ伝道庁90周年記念祭に向けて、年末大掃除同様、神殿、附属建物の大掃除を致します。伝道庁近郊の教会長、布教所長、出張所長をはじめ、大勢の教友にもお手伝いいただきたいと存じますので、何卒、よろしくお願い致します。尚、その日、昼食を希望される方は、準備の都合上、5月月次祭（5/19）までに書記にお知らせください。

祭典役割
現在、おつとめ奉仕者には半年毎に伝道庁祭典参拝の出欠を確認し、また第2日曜日頃までその月の参拝の有無の最終連絡を待っているため、祭典役割の連絡は第2日曜日を過ぎ、多くの方に役割確認の電話を頂戴する状況になっています。そこで、本年（2024年）より、月初めにはその月の祭典役割をお知らせできるようにしています｡就きましては、祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、4月月次祭参拝有無に関しては、今月末（3月31日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

各会連絡

ふしん委員会
・排水管の掃除完了。
・会館2階のドアの設置を間も無く開始。
・会館の屋根を修繕。
・MPホール1階の部屋（婦人会部屋の向かい側）の壁の修復と塗装完了。
・MPホール2階の男性トイレの壁を修理予定。

・会館前の排水管取替えに際し、切り株の除去予定。

教化育成委員会

・TSA 春季練成会を、5 月 25 日（土）～ 5 月 27 日（月）に開催予定です。近日申込用紙を配布致します。
　内容：講話、遥拝式参拝、大掃除参加、お楽しみ行事

広報委員会

・90 周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
　情報提供先：川上（kamishuyo@hotmail.com）
　　林（takhayashi@gmail.com）
・「Stories Inspired by Oyasama」
　現在 5 件が視聴可能になりました。
・Youtube にて「SoulFire」の記録ビデオ（現 6 件）が視聴できます。

Stories Inspired by Oyasama　　SoulFire

婦人会

・天理教婦人会第 106 回総会
　2024 年 4 月 19 日（金）午前 9 時 30 分 於：本部中庭
　記念行事：支部の集い
・主任と委員部長との懇談会を進めております。
・第 31 回女子青年大会
　2026 年 11 月 1 日　於：親里
・アメリカ婦人会創立 70 周年記念写真集の編集、合同総会を準備中。

少年会

・少年会おつとめまなび総会
　8 月 17 日（土）於：伝道庁
　ご参加いただける少年会員は希望する役割、及びおつとめ衣のサイズをお知らせください。
・こどもおぢばがえり
　ジェネラルグループ：7 月 24 日～ 30 日
　海外少年ひのきしん隊：7 月 25 日～ 30 日
　今年からハワイ団との合同隊となります。
・ファンドレイジングにご協力ください！
　こどもおぢばがえりの T シャツを新調する為、「Double Good」というサービスを使用したファンドレイジングを行います。詳細は別途ご案内いたします。
・90 周年記念祭に於ける少年会行事
　「KIDS FUNFEST」
　対象年齢：5 歳～ 15 歳 /4 歳以下は保護者同伴
　教話、ゲーム、クラフト等、楽しく学べるプログラムを計画しています。詳しくはチラシをご覧の上、4 月 21 日までにご登録ください。
・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきましょう。

青年会

・アメリカ青年会では以下の日程で、伝道庁創立 90 周年記念祭、創立 70 周年記念総会に向けて、ひのきしんを行う予定にしております。どうぞご参加ください。
　3/16 午前 10 時　ひのきしん
　　神殿の壁、窓、クッション等の掃除
　4/20 午前 10 時　ひのきしん
　　神殿カンファレンスルーム、神殿ラインド、ダイニングホールの壁や天井の清楚
　5/19 ひのきしん
　　マットレスの清掃、プレイグランド清掃、イーストホールのノベーション
　6/16 ひのきしん
　　壁の高圧洗浄、駐車場の草抜き
・アメリカ婦人会・アメリカ青年会
　　創立 70 周年記念合同総会
　6/29 午後 2 時　於 伝道庁
・インターナショナルひのきしん隊　7/18 ～ 24
　申込書をアメリカ青年会の会員に配布しました。問い合わせは（kkryono@gmail.com）までお願いします。
・教祖 140 年祭の年の 2026 年 7 月 18 日～ 24 日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

NY センター

・3/3 ジョイワークショップ再開　参加者 4 名
・3/11 米日カウンシル TOMODACHI イニシアチブ
・3/17 春季霊祭
・3/22-24 スリーデーコース
・3/15-4/15 台湾アメリカ美術協会展示会

90th Anniversary
SHARING OUR JOY OF FAITH

90th Anniversary

SHARING OUR JOY OF FAITH

Tenrikyo Mission Headquarters
in America

Saturday
JUNE 29

1:30 - 3:30 PM
70th Anniversary Joint Convention
Young Men's and Women's Associations
Attended by Mrs. Harue Nakayama and Mr. Daisuke Nakayama

3:30 - 9:00 PM
Commemorative program and Dinner Reception

Sunday
JUNE 30

10:00 AM
Tenrikyo Mission Headquarters in America
90th Anniversary Commemorative Service

1:30 - 3:00 PM
Reception and Entertainment

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.